

いなぎーCカレッジ のご紹介②

いなぎーCカレッジは、稲城市生涯学習推進計画に基づき、市の主催事業として、平成15年度に開設した単位制市民大学です。

今回は、いなぎーCカレッジが、平成25年度文部科学省調査で「都市型市民カレッジの成功事例」と評価された点などについてご紹介いたします。

いなぎーCカレッジは、市の生涯学習推進の中心的システムとして位置づけられていますが、創設時から、職員を増員せず、講師謝礼に税を投入せず、ボランティア理事とボランティア精

神のある講師と受講生が協力して運営することを市が、側面的支援をする構想に基づいています。

ボランティア理事長と学長の下、約20名のボランティア理事が、毎月の理事会等で活発な協議をし、4月と10月に開講する原則6回(月1回)の有料講座を、常時36講座程度開設し、カレッジの企画運営を担っています。市はすべての会議に事務局として協働するほか、週末に大学の先生をお招きしている「プロフェッサー講座」の講師依頼窓口、講座での講師対応などはしておりますが、定員60名分の会場設営や片付け、受講生の受付等は、ボランティア理事が講座ごとに手分けをして担っています。

ます。

いなぎーCカレッジは、第3次稲城市生涯学習推進計画のキーワードである「にないあい」が、実現した代表事例です。他の自治体からは理想的な運営形態ではあるけれど「簡単にはマネができない」と言われております。東京区部では、いなぎーCカレッジよりも早い時期に同じようなシステムを実現したケースがありますが、いなぎーCカレッジのような発展を遂げられず、衰退をしています。区部での衰退原因は、区主催事業から独立させNPO化したことで、従前のような大学等からの協力が得られなくなるなど、様々な課題が検証されています。

現在、年間約1、500名の

受講生の期待に応えるいなぎーCカレッジに対する市の具体的な役割は、①会場の確保②広報③対外的(大学等)窓口④生涯学習課職員がカレッジ運営全体に参画することです。

いなぎーCカレッジに対する信頼と人気、安定運営の秘訣は、受講生や大学等に対して「教育委員会主催事業の看板を外さず」、常にカレッジ生のニーズを考え、一方的な講座でない「講師と理事と事務局が」にないあう「インタラクティブな運営をする点にあります。全国に誇れる評価を受けている「いなぎーCカレッジ」に、今後ともご支援ご協力いただけますよう、お願い申し上げます。

▽問合せ 生涯学習課